

大日本職業別明細図

昭和8年(1933)(雨村明倫所蔵)

⑦万代醤油店

江戸時代から醤油業を営む旧家で、幕末は志士達を支援しました。錦小路を入った裏手の山口醤油会社にはランドマークの煙突がありました。

⑧図書館

大正15年の摂政宮(昭和天皇)行啓を記念して、春日山東麓に近世ドイツ式三階建の図書館が新築され昭和4年開館、郷土志料室が設置されました。今の県春日山庁舎。

⑨亀山公園

維新の大業を記念するため、亀山頂上を山口県の形に模して公園化し、毛利敬親ほか支藩藩主らの銅像6基が明治33年建てられました。「銅像公園」とも呼ばれ観光名所に。第二次大戦中、金属回収のため供出。現在の毛利敬親像は昭和55年再建されたもの。

⑩水道町

大正14年度から昭和4年1月にかけて下水道工事が行われ、石観音付近から久保ノ町を経て山口駅前を通過する東幹線での布設に伴う新設道路と思われます。その後「東山通」と改称されました。

⑪市立診療所

昭和5年に市救護所とともに開設。区長等の認定により無料診療が行われました。医療施設費は市医師会・赤十字社山口支部病院・市薬剤師会の義捐奉仕によって賄われました。

⑫市立公益質屋

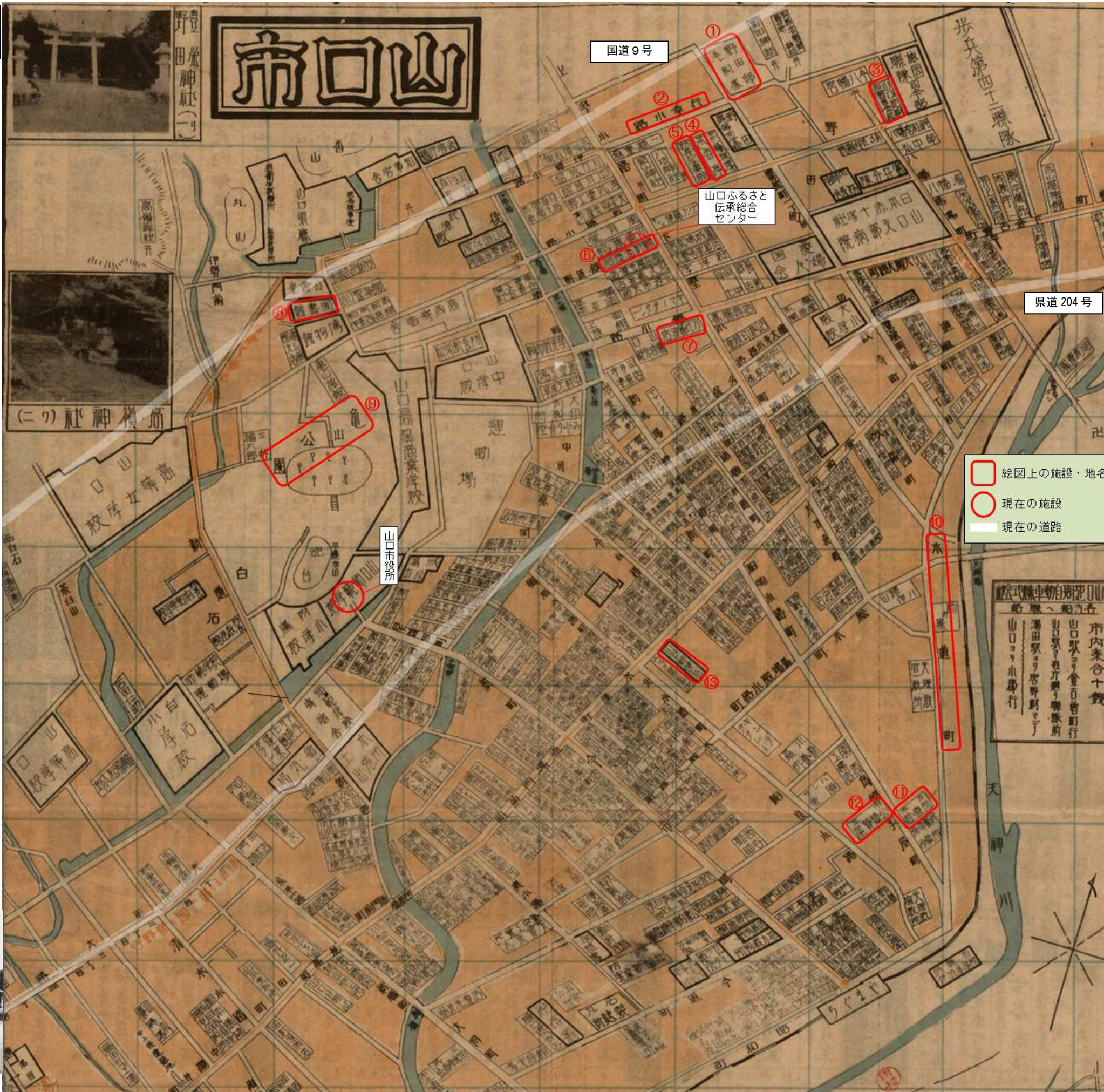
社会福祉事業の一環として昭和7年烏帽子屋町に仮事務所を開業、来店第1号は鮮魚商主人、クローム腕時計で2円の融通を受けたといいます。本事務所は同9年今市・茶畑に市職業紹介所とともに落成しました。

⑬山口郵便局

明治4年中市に山口郵便役所が置かれ、同6年東白石に設置された山口電信局は同19年郵便局に合併。事務の増大に伴い、昭和30年地上4階地下1階の鉄筋コンクリート造に改築。同53年市役所跡地に移転しました。



亀山公園の銅像群(山口市歴史民俗資料館蔵)



①毛利家野田邸(野田御殿)

明治2年毛利敬親の隠居所として建造。戦後県職員住宅となり、残っていた蔵は平成3年取り壊されました。

②行幸小路

明治18年明治天皇行幸の際に、野田御殿を行在所としたことに由来するものかと思われます。戦後「御幸小路」となりました。

③山口定期自動車会社

鉄道本線に沿っていなかった山口では、自動車交通に期待されました。昭和初めに設立され、同6年には12~18人乗りの乗合バス15台が走り市内十銭均一、市民の足として利用されました。(地図上の橙色の線が路線)市に譲渡され同18年市営バスが発足。湯田に移転し同34年市交通局となりました。(現湯田自動車学校の地)

④菜香亭

萩藩の膳部職だった齊藤幸兵衛が明治10年頃開業、県庁へ訪れる客人をもてなすための迎賓館的な料亭として、多くの政財界人・文化人が利用しました。昭和8年国際連盟の会議を松岡洋右が退場し国際連盟脱退へ。松岡の帰郷を歓迎する午餐会が催されました。平成8年閉業。同16年旧野田御殿の地に移築、最も華やかだった昭和11年当時の姿が復元され、「山口市菜香亭」として開館しました。

⑤防長写真館

明治10年頃小野為八が伊勢橋付近で写真館を創業したといわれ、その後八坂神社境内に写真館として変遷。現在残る、3連続アーチのベランダを持ち塔屋を載せた擬洋風建築の「河村写真館」は、明治20年代初頃松原写真館として建てられたものと考えられます。写真師山本紫峯による防長写真館は昭和25年まで営業しました。

⑥野村酒造店

明治19年酒造商家杉酒場として建造、大正期に野村家が受け継ぎました。昭和59年野村益治氏より建物・土地が山口市に寄贈され、平成3年山口ふるさと伝承総合センターとして開館、主屋はまなび館に。



昭和4年の豎小路町(山口市歴史民俗資料館蔵)